

# 令和5年度 事業報告書

社会福祉法人 さわらび会

介護老人福祉施設ブエナビスタ

介護老人福祉施設ブエナビスタ（空床型短期入所）

# 令和5年度 介護老人福祉施設ブエナビスタ 事業報告書

## 1. 令和5年度 基本方針

### (1)生活の場としての施設援助

入居者の方々が安心して生活して頂けるように環境を整え、生活の場を提供する。

### (2)個別ケアへの取り組み

個人のニーズに応じた個別の対応を行えるよう、施設サービス計画書を作成し多職種協働により本人の望むライフプランが可能となるようにチームでサポートしていく。

### (3)職員研修の目標

組織として人材を育て、組織も人材も育つことを目標に、研修を実施していく。研修形態は職場内研修と職場外研修（Web研修）、研修テーマを①職員啓発・法人理念の理解②高齢者の症状の理解③介護技術・対応方法④マネジメント等に分け、年間で研修計画をつくり内容別に人選していく。階層別には、新任職員・中堅職員・指導的職員・管理者別に実施していく。又、全体会で行う勉強会では、職員の意見を取り入れたテーマ等を中心に研修を行っていく。新型コロナウイルス等の感染症予防を実施しながら対面での研修をできるだけ進め、感染状況を見ながら書面研修の形に戻す等、柔軟に対応していく。

### (4)チューター制度

新卒介護職員及び新入職員に対して介護現場での入職時研修を行う際は、主にユニットリーダーがその任にあたるが、その際に介護経験も十分にある介護職のチューターが都度適切なアドバイスをを行い、施設が目指す介護サービスの明確化と全ユニットで介護力の均等な展開を達成できるように進めてきたが、導入から4年目を迎え重要なポジション占めるようになってきており、個別面談を中心に職員の悩み等心情の把握に努めていく。前年度同様に安全対策担当者としての機能も発揮し各部署の協働作業の舵取り役を務めると共に、チューター・システムを各介護職員の個別能力の向上のため活用し、より充実したユニット運営の実現に取り組んでいく。

### (5)地域貢献

シニア層で労働意欲のある高齢者雇用に結びつけられるよう地元企業の協力を仰ぎながらポスター掲示や入居希望を検討されている地元の方々へパンフレットの設置を行うことで、地域とともに歩んでいき、共存し合える関係を構築していく。又、新型コロナウイルス等の感染状況に注視しつつ地域の保育園施設等と協働し幼老交流ができる環境を整えていく。

## 2. 令和5年度 稼働率目標

### (1)特養入居稼働率：96%

「さいたま市特別養護老人ホーム入退居指針」に基づき、優先入居の観点から入居待機者の状態や状況把握に努める。前年度に引き続き常時数名の入居待機者を確保できるよう営業活動に力を入れていく。又、施設見学や相談・問い合わせがあった場合には、感染症の予防対策を行いながら積極的に受入れていき、新たな入居待機者を獲得できるように努める。地域の情勢とユニット型特養の特性を考慮したサービスを提供していく。

(2)空床ショート稼働率

ブエナビスタでは、看取りケア実施している為、開設から現在までのところ空床利用にて短期入所の受入れ実績はないが、引き続き在宅介護についての指導体制が整い次第、受入れを実施していく。

令和5年度 基本方針・稼働率目標に基づき、次のような活動を行った。

## 令和5年度事業報告

1. 事業内容

(1)入居定員 96名 (介護老人福祉施設ブエナビスタ 96名、短期入居生活介護 空床型)

階	居室タイプ	居室数	定員数	備考
1階 (24名)	個室	24室	24名	1ユニット12名 × 8ユニット
2階 (24名)	個室	24室	24名	
3階 (24名)	個室	24室	24名	
4階 (24名)	個室	24室	24名	

(2)職員体制 (令和6年3月31日現在)

(単位：人)

	人数		合計	資格
	常勤	非常勤		
施設長				
副施設長兼生活相談員	1		1	社会福祉士
事務員	1	2	3	
介護支援専門員	1		1	介護支援専門員
看護職員	4		4	正看護師3名 准看護師1名
介護職員	25	9	34	介護福祉士26名、実務者研修3名 初任者研修5名
機能訓練指導員				
管理栄養士	1		1	管理栄養士
家事援助員		9	9	
清掃員・用務員		3	3	
宿直		4		
医師 (内科医師：非常勤)		2	2	
合計	33	29	62	—

(2)採用・退職

		令和5年									令和6年			合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
採用	正職						1	2		1				4
	臨時											1		1
	パート	2	1	1	2	1		1			2	1	1	12
	派遣	1	1	2	1	2	2	1	3	1		2	1	17
退職	正職	1			1	1	1	1	2		1		1	9
	臨時													0
	パート						1		1	1			1	4
	派遣	1	2	1	1	3		3		2	1	2		16

(3)職員法定健康診断（腰痛健康診断含む）（単位：人）

	延べ人数
一般健康診断	58
新規採用者健康診断	13
腰痛健康診断	0

2. 利用者状況（介護老人福祉施設）

(1)市町村別・性別・年齢別入居状況（令和5年3月31日現在）

	男性	女性	合計	平均年齢		
				男性	女性	平均
さいたま市	18	64	82	83.1	87.8	86.7
志木市	1	1	2			
川越市		1	1			
越谷市	1		1			
練馬区	1		1			
荒川区		1	1			
野木町		1	1			
西川町		1	1			
佐渡市		1	1			
岡山市		1	1			
合計	21	71	92			

(2)月別退所状況及び退所先

月別	人数	退所先			
		医療機関	施設	在宅	死亡
令和5年	4月	0			
	5月	2			2
	6月	0			
	7月	3	2		1
	8月	1	1		
	9月	1			1
	10月	2			2
	11月	2			2
	12月	1			1
令和6年	1月	2			2
	2月	2			2
	3月	5			5
合計	21	3	0	0	18

(3)入居利用者の介護度（令和5年3月31日）

要介護度	男性	女性	合計	構成比
要介護3	7	17	24	26%
要介護4	7	27	34	37%
要介護5	7	27	34	37%
合計	21	71	92	100%

※特別養護老人ホームの対象者は、原則、要介護3以上

3. 令和5年度 利用者数

(1)介護老人福祉施設

(単位：人)

		令和5年					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月
介護 給付	要介護3	540	620	570	583	549	567
	要介護4	1,038	998	1,007	1,054	1,064	1,035
	要介護5	1,198	1,289	1,247	1,228	1,240	1,225
	合計	2,776	2,907	2,824	2,865	2,853	2,827
延べ定員数		2,880	2,976	2,880	2,976	2,976	2,880
稼働率 (%)		96.4	97.7	98.1	96.4	95.9	98.2

		令和5年			令和6年			合計
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	
介護 給付	要介護3	589	623	709	713	693	769	7,525
	要介護4	1,099	1,011	1,050	1,029	1,031	1,063	12,479
	要介護5	711	657	659	1,091	957	1,054	13,994
	合計	2,921	2,750	2,875	2,833	2,681	2,886	33,998
延べ定員数		2,976	2,880	2,976	2,976	2,784	2,976	35,136
稼働率 (%)		98.2	95.6	96.6	95.3	96.4	97.1	96.8

5. 入所待機者の状況 (令和5年3月31日現在)

市町村名	人数	待機場所			
		医療機関	施設	在宅	その他
さいたま市	11	2	2	7	
川口市	1		1		
志木市	1		1		
福島県南相馬市	1		1		
合計	14	2	5	7	

6. 研修実施状況

(1)外部研修 (Zoom研修も含む)

実施日	場 所	研修内容	参加人数	
令和5年	6月2日	Zoom	ストレス対処力をあげる・気持ちを切り替えるセルフケア研修	1
	6月14日	Zoom	繰り返し学ぶ感染症予防・基礎研修	1
	6月21日	Zoom	高齢者看取りケア研修	1
	6月21日	Zoom	レジリエンス向上研修	1
	6月30日	Zoom	介護職員のため医療・薬の基礎知識研修	1
	7月7日	Zoom	人事管理・人事考課研修	1
	8月1日	Zoom	医療的ケアに関する研修	1
	8月23日	Zoom	職場内コミュニケーション研修	1
	9月4日	Zoom	認知症ケア研修	1
	9月7日	Zoom	リスクマネジメント研修	1
	9月14日	Zoom	接遇研修	1
	9月16日	Zoom	ハラスメント防止研修	1
	9月19日	Zoom	福祉現場に必要な法律の基礎知識研修	1

	9月28日	十文字学園女子大学	給食施設従事者等研修会	1
	9月30日	秋草学園福祉教育専門学校	介護職種の技能実習指導員講習	3
	10月29日	Zoom	感情マネジメント研修	1
	11月1日	Zoom	感染症対策・応用研修	1
	11月16日	Zoom	ファシリテーション研修	1
	12月8日	Zoom	調理師・栄養士研修会	1
令和6年	2月6日	Zoom	看護職のためのユニットケア研修	1
	2月14日	Zoom	認知症ケア専門研修	1
	2月20日	Zoom	クレーム対応研修	1
	2月20日	Zoom	令和5年度令和の若者「Z世代」の価値観を考える	1
	3月12日	Zoom	高齢者虐待防止研修	1

<延べ参加者数：26名(内オンライン23回)>

(2)内部研修（全体会）

実施日		場 所	研修内容	参加人数
4月	10日	3階大会議室	・介護職員のための感染対策について	13
	14日	3階大会議室		9
5月	15日	3階大会議室	・ユニットケアについて ・ケアプランについて	9
	19日	3階大会議室		7
6月	12日	3階大会議室	・トロミ調整食品の正しい使用方法について ・身体拘束・虐待防止について	8
	16日	3階大会議室		9
7月	3日	3階大会議室	・高齢者施設に必要な医療知識	6
	7日	3階大会議室		7
8月	7日	紙面	・排泄ケアについて	42
	11日			
9月	4日	3階大会議室	・事故防止について ・身体拘束廃止について	8
	8日	3階大会議室		4
10月	23日	紙面	・接遇及び家族対応について	42
	27日			
11月	20日	紙面	・個人情報保護法について ・法令遵守について	39
	24日			
12月	18日	紙面	・感染症及び食中毒予防、蔓延防止について	30
	22日	3階大会議室		9
令和6年 1月	22日	3階大会議室	・事故防止について ・虐待防止について	6
	26日	紙面		31
2月	19日	3階大会議室	・認知症ケアについて	8
	22日	紙面		33
3月	18日	3階大会議室	・看取りケアについて	5
	22日	3階大会議室		10

<延べ参加者数：335名>

7. 委員会活動実績

委員長を中心に事前に予定（場所・時間・内容）を決め招集を図り、法定委員会・運営委員会を定期開催を行う事が出来た。又、昨年に引き続きコロナ禍により自宅待機等で担当職員の出席が難しい場合、代理出席・紙面会議の方式で対応し、年間を通じて開催を行う事が出来た。継続的に開催を重ねる事により、責任感や取り組み姿勢、書類作成、多職種連携が図れ、業務の統一等サービス向上に繋がった。

## (1)法定委員会

### ①感染対策委員会

開催月	出席者		主な議題
毎月開催	理事長	副施設長	・入居者感染症リストの更新 (HBV・HCV・TPHA・MRSA・CD・ESBL) ・感染状況の確認及び予防対策の検討
	安全対策担当	看護職員	
	介護チーフ	管理栄養士	
	各階介護士		

- ・毎月、入居者の感染症リストを作成し、感染状況の確認を行う。又、定期的に理事長より新型コロナウイルス感染情報を共有し、感染予防意識の向上に努めた。
- ・入居者・職員に施設及び施設医の指示のもと抗原検査を実施し内容の報告を行った。
- ・新型コロナウイルス・インフルエンザの感染動向や行政情報の確認及び感染予防対策を検討した。

### ②褥瘡予防委員会

開催月	出席者		主な議題
毎月開催	理事長	副施設長	・褥瘡発生者の有無について報告 ・年4回OHスケール測定を実施しリスクデータを基に ベットマット・エアーマットの選定、私用状況の確認 報告 ・褥瘡予防研修（施設内部研修）の企画・実施
	安全対策担当	看護職員	
	介護チーフ	管理栄養士	
	各階介護士		

褥瘡発症者（入院治療中の利用者も含めた数）

（単位：人）

		令和5年									令和6年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
発生者	1階	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2階	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3階	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4階	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

- ・令和5年3月末現在、褥瘡発生者はなし。
- ・日頃から入居者の皮膚状態の観察を行い、異変があれば他職種と協働し早期発見・対処に努めた。
- ・施設内部研修については、感染症の流行状況をみて集合研修から書面研修に切り替えて実施し、職員へ褥瘡予防の理解、意識付けを行った。

### ③安全衛生委員会

開催月	出席者		主な議題
毎月開催	理事長	副施設長	・特養職員の健康状態の把握 ・健康保持、向上への指導・助言
	介護チーフ		

- ・毎月、担当者より職員の心身状態の報告を行い、産業医・医療機関との連携（受診の有無など）を図り、対象職員にあった休息や業務内容の組み立てを検討した。

### ④事故防止検討委員会

開催月	出席者		主な議題
毎月開催	理事長	副施設長	・前月分の事故報告、ヒヤリハット1・2の集計分析

	安全対策担当	機能訓練指導員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・類似事故の再発防止策の検討</li> <li>・センサー類使用状況確認</li> <li>・事故防止研修（施設内部研修）の企画・実施</li> </ul>
	介護チーフ	各階介護士	

- ・各ユニットで起きた事故及びヒヤリハットの内容・場所・時間・自立度等を整理し発生状況の分析・検証し、事故検討会で検討した事故の原因分析や対策について再発防止に繋がっているかを評価、検証した。
- ・年2回事故防止についての内部研修会を実施し、職員のリスクマネジメントに対する意識の向上を図るとともに行政報告が必要となる事故内容及び書類作成について全職員に周知を行った。
- ・事故委員を中心に車椅子の安全点検（2ヵ月に1度）を実施した。

⑤虐待防止委員会 ⑥身体拘束廃止委員会（合同開催）

開催月	出席者		主な議題
毎月開催	理事長	副施設長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待・身体拘束実施の有無の確認</li> <li>・身体拘束実施における解除にむけた検討</li> <li>・不適正ケアの確認及び改善策の検討</li> <li>・身体拘束廃止の適正化・虐待防止（施設内研修）の企画・実施</li> </ul>
	安全対策担当	管理栄養士	
	介護チーフ	各階介護士	

- ・施設内での高齢者虐待及び身体拘束の事例が発生していないかを毎月確認した。又、令和4年5月～令和5年8月まで実施した身体拘束（つなぎ服着用）について、ご本人の状況をみながら段階的に解除にむけた取組み（令和5年9月解除）を検討した。
- ・毎月テーマを変えて、不適切ケアについてユニットごとに現状確認、改善策について検討した。
- ・年2回身体拘束の適正化及び虐待防止についての内部研修会を実施し、職員へ不適切ケア防止の意識付けを行った。

⑥給食委員会

開催月	出席者		主な議題
毎月開催	理事長	副施設長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嗜好調査や残食、聞き取りから給食への意向を確認し献立や調理方法の検討を行う</li> <li>・行事食や日々の食事提供での連携を図る</li> <li>・食事形態の見直しや改良の検討をする</li> </ul>
	各階介護士	管理栄養士	
	委託業者：調理師・マネージャー		

- ・嗜好調査や残食、聞き取りから給食への意向を確認し、利用者が好まれる献立、食べにくい献立を確認し、食べやすい献立の検討を行った。
- ・日々の食事提供での問題点の聞き取りをし、改善に向けて連携を行った。
- ・食事形態の見直しのため試食をしながら改良に努めた。

⑦定例入所判定会

開催月	出席者		主な議題
毎月開催	第三者委員	副施設長	・入居申込状況及び取下げ状況について



	介護ユニットリーダー	生活相談員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入退居状況及び入退院状況について</li> <li>・新規入居者選考について</li> <li>・在宅復帰にむけた検討について</li> </ul>
	機能訓練指導員	看護師	

- ・新型コロナウイルス感染症等感染予防の為、対面での開催がほぼ出来ず書面にて意見聴取する形を取り、入居申込状況や入退居・入退院の報告を行った。又、第三者委員には後日入居退居状況や施設の状況について報告や意見聴取を行った。

#### ⑧苦情解決委員会

開催月	出席者		主な議題
年1回	第三者委員	副施設長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三者委員へ1年間の苦情報告</li> <li>・ブエナビスタの現状についての報告及び助言</li> </ul>
	生活相談員		

- ・令和5年度は、過去3年ほど書面での開催だったが3年ぶりに対面で開催し苦情報告を行った。家族との連携や報告等を細目に行い信頼関係を築き誠心誠意努めるよう意見を頂いた。

### (2)運営委員会

#### ①防災委員会

開催月	出席者		主な議題
奇数月	副施設長	防火管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回実施の防災訓練内容の検討</li> <li>・備品（ヘルメット・防災頭巾等）の総数・保管の確認</li> <li>・防災備蓄食料の確認及び更新</li> </ul>
	介護チーフ	各階介護士	

- ・令和5年度は、11月に夜間想定で河川の氾濫からの垂直避難・消火訓練。3月に日中想定で避難訓練・消火訓練を実施した。職員の入れ替わりもあり、消防訓練に参加したことのない職員を中心に訓練に参加してもらい、消火器の使用方法を理解する等防災意識を向上させることができた。
- ・防災備蓄食料の確認を行い、適切に賞味期限の入替えができた。

#### ②ユニット会

開催月	出席者		主な議題
毎月開催	介護チーフ	介護ユニットリーダー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事、口腔ケア、排泄、入浴に関するサービス提供の確認と見直しの検討</li> <li>・改善項目・直近課題の対応の検討</li> </ul>
	介護職員	看護職員	

- ・毎月各ユニットでユニット会議を開催し、入居者の状況をユニット職員で確認・情報共有を行った。又、現在のケア方法を継続していくべきか、変更が必要かの検討を行い、常に入居者の状況に合ったケアを提供できるように努めた。
- ・各種委員会にて話合った内容をユニット会でも伝達し情報共有を行った。
- ・（排泄）利用者に適切なパッドを使用出来るよう、尿量測定を行いパッド変更や交換回数の見直しを行ったが、効果が出るまでには至らず今後の課題として残った。
- ・（入浴）コロナ禍により自宅待機による人員確保に苦労したが、入浴日の変更や各階の勤務シフトの調整を行い各階の職員と連携し出来る限りゆっくり入浴して頂けるように取り組みを進めた。
- ・（食事）利用者の嚥下状態等、心身の状態に合わせて、食事形態の見直しを行い適切なトロミの使用を心掛けた。管理栄養士と連携を図り、療養食や傾向維持加算の対象となりえる入居者の選定、情報提供を行った。
- ・（口腔）コロナ禍の感染予防で自宅待機等、人員確保に苦労し十分な口腔ケアを行う事が難しか

ったが、協力医療機関の歯科医院と連携し口腔ケアが不十分な入居者をピックアップし少人数ではあるが、往診にて歯科衛生士によるブラッシング等を実施し清潔に努める事が出来た。

### ③レクリエーション・広報委員会

開催月	出席者		主な議題
毎月開催	副施設長	介護チーフ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間行事予定の立案と実施</li> <li>・ユニットごとのレクリエーション・行事の立案と実施</li> <li>・年4回、ユニットごとに家族へ送るユニット通信作成</li> </ul>
	安全対策担当	各階介護士	

- ・毎月、季節感を味わって頂ける行事を企画、実施したが感染状況に左右されることが多く、行事の日程変更や内容の変更を検討しながらの実施となった。外出レクについては、感染予防の観点から実施が出来なかった。
- ・ユニットごとに適宜、レクリエーションや行事を企画、実行しおやつレク、料理レクがメインとなったが出前レクやゆず湯等のレクは入居者に好評な様子が見られた。又、体操を盛り込んだ音楽レクも適宜実施し楽しみにされている入居者も多かった。
- ・年4回、ユニットごとにユニット通信を作成し、コメントを一言添えて掲載許可のある入居者の写真を掲載しご家族へ送付した。感染予防の観点から面会制限を継続している中、家族からは入居者の近況を知る材料の一つとなっており喜びと感謝のコメントをたくさん頂戴した。

### <令和5年度 年間行事予定実施状況>

日程	行事内容	実施状況	
令和5年	4月	お花見（散歩）	3月末に実施。4月は花が散り実施できず
	5月	母の日	ユニットごとに母の日レクを実施
	6月	父の日	ユニットごとに父の日レクを実施
	7月	七夕祭り	ユニットごと（フロア共同）で七夕レクを実施
		花火	実施できず
	8月	納涼祭	ユニットごと（フロア共同）で納涼祭を実施
		花火	実施できず
	9月	敬老会	ユニットごとに敬老会を実施
	10月	お月見	感染予防で中止
		運動会	感染予防で中止
	11月	料理・おやつ	ユニットごとにおやつレク（いも）を実施
		買い物レク	感染予防で中止
12月	クリスマス	ユニットごとにクリスマス会を実施	
	ゆず湯	ユニットごとにゆず湯を実施	
令和6年	1月	新年会	感染予防で中止
	2月	節分	ユニットごと（フロア共同）で豆まき実施
	3月	ひな祭り	ユニットごとに実施し、事務所前にひな壇設置

### <不定期の行事>

- ・カラオケレク
- ・カフェ
- ・誕生日会
- ・出前レク
- ・おやつレク

### 8. 各部門の取り組み

#### (1)教育チューター

##### ①職員教育

<新入職員（正職員・パート職員・派遣職員）へのオリエンテーション実施>

入職1週間以内を目途に実施。令和5年度は正職員5名、派遣職員14名、非常勤職員2名に各種マニュアル、施設案内、業務の流れ、入居者の状況、非常時の避難経路等の説明を行った。

事故防止については、イラストを使用し危険予知の個人ワークにて事故防止に必要な知識（入居者を知り、視野を広く持ち、多角的に分析する、介護職員としての気づきの力・想像する力）の指導を行った。

ヒヤリハットは、リスク1・リスク2・行政事故報告書の基準の説明を行った。

身体拘束については、理念・身体拘束における弊害・不適切ケア（グレーゾーン）及びやむを得ず身体拘束を行う場合の三原則（切迫性・非代替性・一時性）について説明する。

感染症対策については、接触感染・飛沫感染・空気感染等の感染経路がある事や高齢者施設における代表的な感染症（インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症・ノロウイルス・肝炎・梅毒・MRSA・ESBL等）の説明とその予防対応含むケア方法を指導した。

#### <職員への個人面談実施>

対象は、新入職員（月1回×成長レベルに応じて概ね半年～1年間）及びユニットリーダーから依頼があった職員で、職員と同じ目線で話を聞くことを心掛け職員のストレスや不満、不安の解消を図り、職員との信頼関係構築することを目的として実施した。

内容は、体調確認（腰痛等）・業務上の課題（提案・目標）・入居者、家族への対応等の課題・職員間の関係性や悩み事、やりがい、働きやすさ、待遇、コロナ感染予防、介護観、ストレス等、個々の職員の状況に併せて行った。

#### <新入職員へ自己チェックシートによる自己評価、リーダー評価の実施>

対象は、正職員（入職3ヶ月後、半年後）計2回実施している。内容については、介護における知識、技術、心構え等の項目ごとに職員自身及びユニットリーダーが評価し、自身が現在出来ていること、出来ていないことを明確にし今後につなげていくことを目的として実施した。評価後、採点表を作成し副施設長、介護チーフ、ユニットリーダーに報告し面談等を通して個別に助言やアドバイスを行った。

#### <毎月の全体会（施設内部研修）の実施>

年間の研修計画に沿って研修実施のサポート（研修内容の企画、資料作成等の準備、日程調整、報告書の確認等）を実施した。令和5年度は法定研修である事故防止、身体拘束の適正化（虐待防止）、感染症対策に加え、認知症ケア、排泄ケア、接遇及び家族対応、ユニットケア、高齢者医療、個人情報保護・法令遵守、看取りケア、救急対応の手順についての研修を実施した。感染症の流行状況により集合研修から各ユニットでの書面研修に切り替える等、状況に応じて研修を実施し、職員からは非常に勉強になったとの声も聞かれた半面、参加率が毎回少ないという課題もあった。

#### ②安全対策担当

ヒヤリハット報告書及び事故報告書を確認し、事故検討会の出席、多職種にて原因と対策を検討した。家族への連絡体制で曖昧な報告があったので、その内容を統一し対応がとれるように全職員に周知した。事故防止委員会に出席した際には、フロアごとの月集計をもとに事故内容の傾向や課題、対策を検討した。又、防災委員会に出席した際には、非常時の対策を検討した。職員の入れ替わりがあり、議事録の提出漏れが多くあった為、役割分担を明確した。

## (2)介護

各ユニットで「さわらび会の理念」に沿った年間目標を計画し、入居者に安心した生活を送って頂く為の介護支援が出来るように意識付けを行った。しかしながら、一部達成できなかった内容が各ユニットで残る結果となった。令和6年度は引き続き目標達成ができるよう各ユニットで課題分析を行い介護支援が出来るよう努めていく。

#### ①生活全般

家族とのガラス越し面会は、14:00～15:30の間で予約制とし1組10～15分の面会時間で1日5組までの面会を実施した。ガラス越しではあったが入居者と家族の交流の場を作ることができ、多くの笑顔を見る事ができた。面会時には家族へ生活時の様子を報告することで情報共有を行ったが、面会に中々来られないご家族への配慮にやや課題が残った。

新型コロナウイルス感染症の流行状況の把握に努め感染対策を実施した。令和5年度は入居者4名職員12名の感染が発生しましたが、濃厚接触者の居室対応・ゾーニング対応や職員のフロア移動の制限を行う事で職員の意識も高まり自主的に感染症対策にも取組んだ結果クラスター発生には至らなかった。

#### ②リスクマネジメント

行政報告の介護事故は16件であった。前年度は2件であった為大幅に増加した。内容は服薬ミスが10件、誤嚥1件、転倒2件、骨折1件、火傷1件、転落1件。事故発生後、事故検討会を開催し、多職種に事故の原因、分析、対策の検討を実施した。又、検討した内容をさいたま市に提出後、書面にて全職員に再発防止に向けて周知徹底を図った。

特に服薬ミス（誤薬・落薬・予薬漏れ）の事故が多く、各ユニットで作成している服薬マニュアルの見直しやチェック体制の改善、新入職員への服薬指導を徹底し実施した。

苦情は、2件であった。内容は事故報告と同一入居者の火傷と面会時の施設の対応についてであった。火傷については報告時は、大したことないと家族は思っていたが面会した際に範囲が広がったので驚いたということで、説明や認識の違いが大きな要因であった。再発防止に向けた業務の見直しや安全確認の徹底を全職員に周知した。面会対応についても家族の誤解を招かない説明の仕方を検討し全職員に周知した。リスクの高い入居者については、入居前の情報を基に環境変化による生活リズムの把握や心身の状態をアセスメントし、インシデントの収集や職員間での情報共有する事で事故防止に繋がるよう努めた。

#### ③人材（財）育成

職員のスキル状況に合わせてシフト作成を行い、勤務や業務内容の調整を行った。新入職員育成についてはトレーニング期間を設けて1対1での関りを持ち、スキル状況を見極めて段階を踏んでから、次の業務トレーニングを行った。又、教育チューターと連携し業務の進捗や悩み事等の確認を共有することで新入職員が孤立しない環境に努めた。委員会活動は、職員の入退職状況に左右されることが多かったが今まで参加されていなかった職員を入れることで帰属意識の底上げに繋げた。新たな雇用形態として入浴専従職員を配置し、配属先職員の業務負担の軽減を図った。

又、内部研修だけでなくzoomを使った外部研修に積極的に参加し介護技術や知識の向上に繋げ人材育成に努めた。

### (3)看護

新型コロナウイルス感染症にて入居者や職員の罹患が発生し、職員の人数が少ない中でも入居者へ

の対応や感染拡大防止を多職種と協力することで最小限に抑えることができた。又、協力医療機関との連携で罹患した入居者を素早く入院に繋げることができた。施設医が入居者と日々の関わりにて観察する事で異常の早期発見・早期治療ができ、指示のもと施設で可能な治療を行うことで入居者の状態悪化を防ぎ、入院数や受診数を少なく抑えることができた。

#### ①服薬

行政案件となる誤薬事故の発生がやや多かったが、迅速に検討会を開き服薬マニュアルの変更を行い服薬事故防止に取り組んだ。又、新入職者には、服薬マニュアル通りにできるまでユニットにて指導を行い、最終確認を看護師が行うことで正しい服薬を徹底することができた。

#### ②感染症

新型コロナウイルス感染症の扱いが2類から5類に引き下げられたこともあり、ワクチン接種について積極的に接種を求めることが難しい現状ではあったが全体の7割程度の入居者は接種することができた。入居者が4名罹患してしまったが、3名は協力医療機関と連携し即日入院することができた。1名は症状が軽度だった為、入院できず施設対応となったが一昨年起きたクラスターの経験を活かし居室隔離対応を行い、対応を徹底したことで他の入居者や感染拡大を防ぐことができた。

#### ③多職種連携

感染症対策委員会や褥瘡予防委員会に参加することで、入居者の感染状況や褥瘡の有無について多職種と情報を共有し、感染対策の意識の向上や褥瘡に対しての知識を深められるよう啓発に努めることができた。

#### ④褥瘡

施設医や他職種と連携を図り、褥瘡やスキントラブルがなく経過することができた。

特養入院日数状況

(単位：人)

	令和5年									令和6年			合計	平均
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
入院者数	2	2	4	1	1	4	0	1	1	1	1	1	19	1.5
延べ入院日数	61	34	122	14	14	39	0	10	15	45	14	13	371	30.9

特養外来受診状況 (延べ人数)

(単位：人)

	令和5年									令和6年			合計	平均
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
内科							1						1	0.1
循環器	1	1	1	1			1						5	0.4
脳神経外	1	1										1	3	0.2
消火器外	1	1	3	1				1					7	0.5
消火器内		1									1	1	3	0.2
泌尿器		3		1	1				1			1	7	0.5
神経内科	1	1	1		1				1			1	6	0.5
精神科	1	2	2	3									8	0.6
整形外科							1	1	1				3	0.2
皮膚科	1	2	2	2									7	0.5
耳鼻科		3	1							1			5	0.4
眼科	2	1		1				1				1	6	0.5
合計	8	16	10	9	2	0	3	3	3	1	1	5	61	5.0

救急搬送	2	2	4	1	1	4	0	1	1	1	1	1	19	1.5
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	-----

#### (4)機能訓練（リハビリ）

- ①LIFE（科学的介護情報システム）に取り組み、アセスメントを定期的を送ったがフィードバックに関しては上半期、連携不足のためフィードバックの確認が遅れた。下半期はフィードバックされたデータを確認しながら準備に取り組んだ。
- ②利用者の日常生活動作が維持できるよう、個別機能訓練計画書を立案。計画的に個別リハビリを実施し、利用者の生活動作の維持に繋がった。又、機能訓練指導員だけでなく介護職員等に対して情報共有を図る為に、個別機能訓練計画書のファイルを各階の棚に配置し、周知に取り組んだ。
- ③令和4年12月に機能訓練指導員が退職となり、機能訓練が中断となっている。

#### (5)生活相談

##### ①特養入居

- ・入居の相談及び申込窓口として対応を行った。令和5年度の定例入所判定委員会は、毎月『さいたま市特別養護老人ホーム入退居指針』に基づき、第三者委員（大滝裕子様）も参画し、入居検討委員会が透明性・公平性の確保に努めた検討・決定を行った。
- ・入居待機者の状況については、生活相談員が連絡を取り状況の確認を行った。

#### 入居検討委員会開催実績

（単位：回）

	令和5年									令和6年			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
件数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12

- ・事前調査では、対象者の生活歴を中心に心身の状況や家族の支援状況等を確認し、併せてワクチン接種状況やコロナの罹患歴の収集に努め、ご家族には面会方法を説明とご理解に努め可能な限り入居前には、抗原検査やPCR検査の実施を行い感染予防に努めた。
- ・コロナ対応が5類に引き下げとなったが感染力については変わらない状況を踏まえ、面会については、居室までの入室は禁止とし1階エントランスにて感染対策を実施した上で、対面面会を実施。感染状況を確認し感染者数が上がり始めたところでガラス越し面会に切り替え対応した。ボランティア等の受入れは出来なかったが、往診のご厚意で演奏会を実施し参加された入居者からは一緒に歌う等好評であった。
- ・令和5年度は、在宅復帰される入居者はいなかった。入居検討会にて定期的に在宅復帰に向けた検討を行いご本人とご家族の想いを汲み取り検討した。
- ・苦情窓口となり家族からケアに対する要望、日常の声掛けや関わり、身体の変化等の報告があった際には、多職種と連携し常日頃の状態報告を共有し家族の思いを伝えた。

#### (6)ケアプラン

- ・入居者について、心身の状態や取り巻く環境、利用者及び家族の希望等を勘案しながら、施設サービス計画書（ケアプラン）の作成に努めた。
- ・サービス担当者会議は定期的（3ヶ月）に開催し、入退院、状態の変化、新規入所後、行政事故報

告、褥瘡、看取りケア開始等可能な限り入居者にも参加して頂きながら、現在の状態を多職種と共有し検討した。又、ご家族には面会時や電話連絡にて事前の聴収や確認を行った。

- ・看取りケア開始前には、医師から IC を行い同意を得て本人やご家族の想いに寄り添ったケアプランとなるようにユニット職員をはじめ多職種と密に連携を図った。

#### 特養ケアプラン作成実績

(単位：件)

	令和 5 年									令和 6 年			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
件数	37	40	26	28	40	42	33	35	27	32	39	31	410
看取りケア	1	3	1				2	2	1			1	11
看取りケア解除	2												2
計	40	43	27	28	40	42	35	37	28	32	39	32	423

<前年度：414件>

※R4 年度実績より作成件数 9 件増加した。入居稼働率が上がり、入退居者が安定していた為。

#### (7)食事・栄養

##### ①食事

給食委員会を毎月 1 回開催し、嗜好調査の結果を共有し、利用者の栄養状態、衛生管理、行事について各職種間で意見交換・検討を行い課題解決に努めた。下半期からは申し送りに参加し介護部門との連携を図った。

利用者ごとの咀嚼、嚥下状態に応じた食事形態や嗜好に添った食事提供に努めた。

体調不良時にはその時の状態に応じた食事形態での食事を提供出来た。

食事量の低下、嚥下状態の悪化が見られる利用者に対して、粥ゼリーの提供、栄養補助食品の提供を行い経口摂取の継続を行う事が出来た。

納涼祭、敬老会は今年度も規模縮小での実施であったが、お祝いの松花堂弁当の提供が出来た。又、旬の食材を使用した料理、行事食を提供し食事の面から季節を感じて頂けるように努めた。

全ての食材料について値上がりしている為、新しい献立の実施、食数の確認、発注量の見直しの頻度を増やし残食の減少に努めた。又、職員食の欠食ミスも減少しフードロスに繋がった。

##### ②栄養

多職種協働のサービス担当者会に参加し、栄養ケアマネジメントを実施することが出来た。

利用者ごとの身体的データ及びその他の身体状態を把握し状態に合わせた栄養補助食品を選定・提供を行う等栄養状態の維持・改善に努めた。褥瘡発生者、OH スケール高度リスクの入居者には食事量・体重増減の把握・栄養状態の確認を行い、状態によりカロリーの見直し、補助食品の提供を行った。

医師の指示により療養食の提供を行い、慢性疾患の病状の安定に努めた。

##### ③衛生管理

給食委託会社と連携し衛生管理に努めた。

##### ④コロナ対策

感染症発生時は給食委託会社と連携し、発生時の配膳方法をマニュアル化し感染の拡大防止に努めた。感染症対策として使い捨て容器での食事提供を行い、食器の備蓄をした。随時感染者には使い

捨て容器での食事提供を行い感染対策に努めた。

低栄養状態リスク(令和6年3月判定)

	令和6年3月	令和5年3月
低リスク	31名	28名
中リスク	50名	51名
高リスク	11名	13名

療養食(加算対象)

(令和6年3月)

心臓病食	腎臓病食	糖尿病食	貧血食	合計
1名	2名	3名	8名	14名

※療養食対象者の退所や検査数値改善のため前年度の16名から2名減少。

経口維持加算Ⅰ(加算対象) (令和6年3月)

経口維持加算Ⅰ
14名

9. 防災・安全対策

(1)防災訓練

火災災害や風水害に備え防災訓練を桜消防署と連携のもと、下記の通り実施した。

訓練実施日 訓練想定	訓練実施項目	参加者	
令和5年11月28日 (夜間想定)	①大型台風発生時、近隣河川の氾濫情報の入手 ②河川の氾濫からの避難誘導(1階及び2階からの垂直避難) ③避難誘導後の入居者の安否確認 ④施設内外の設備点検の実施(建物・設備の確認) ⑤情報収集(入居者・職員等の安否・受傷状況確認、施設建物状況確認) ⑥指揮統括(管理者へ安否確認及び被害状況報告) ⑦水消火器を利用した初期消火訓練 ⑧各種消火設備の設置場所の確認	特養	職員:5名 利用者:96名
令和6年3月14日 (日中想定)	①火災発生時の入居者及び職員自身の安全確保 ②火災発生の確認及び初期消火 ③出火元からの避難誘導 ④避難行動訓練(出火元から遠ざかるよう並行避難) ⑤消防機関への通報及び連携 ⑥施設内外の設備点検の実施(建物・設備の確認) ⑦情報収集(利用者、職員等の安否・受傷状況確認) ⑧指揮統括(管理者へ安否確認及び被害状況報告) ⑨水消火器を利用した初期消火訓練	特養	職員:12名 利用者:92名

新型コロナウイルス感染予防のため、感染状況を見ながら日時を変更し実施した。又、いつも参加している職員ではなく、なるべく参加したことのない職員や新入職員に参加してもらうよう働きか



けや実施する事で職員の防災意識の向上を図れた。又、防火管理者がさいたま市にて開催している火災予防対策講習会に参加し、火災予防に関する講話や防災センターを利用した消火・避難の体験する事で防災意識を高める事ができた。

## (2)設備点検【法廷点検】について

①消防用設備等点検は、中央理化工業が、令和5年7月27日と令和5年1月11日の2回実施した。内、7月27日の点検結果をさいたま市消防局に提出した。

②非常用発電装置は、ESA 株式会社が次のように実施した。

- ・電気設備点検を隔月毎実施。

## 10. 広報活動

ユニット通信作成：4回

月	回数	月	回数	月	回数
4月	1	8月	0	12月	0
5月	0	9月	0	1月	1
6月	0	10月	1	2月	0
7月	1	11月	0	3月	0

### 11. 総括

(1)令和5年度は、老人福祉法に基づく指導監査（令和5年12月27日）が実施された。総合施設長・事務長等の協力を基、各部署で担当の割振りを行いながら、各項目（事故・苦情・入退院・褥瘡等）に台帳の作成・更新し、抜かりや整合性の確認を行った。又、監査前日には、本部より総合施設長・事務長に来設して頂き、整備された書類を総合施設長のアドバイスにて項目毎に名札を付けて準備し、対応しやすくする事が出来た。監査当日は、初めて指導監査を体験する職員や慣れていない職員もおも緊張も見られたが、経験のある職員と組み書類の確認やヒヤリングに対応し良い経験に繋がられた。指導監査自体も感染対策の関係で午前中に終了する事が出来た。担当責任者のさいたま市監査課職員より「前回、指摘を受けた事項は改善されていました。又、今回の実地指導についても概ね指摘事項はありませんでした。」との講評があり、文書結果も「概ね適正、指導事項なし」との結果であった。

(2)令和5年度の収入実績は、前年度527,925,003円に対して今年度は、530,451,525円で前年度比100.4%、日標に対しては106.4%の実績であった。特養入居の稼働率は、年間利用日数35,136日に対して実利用日数が33,998日、稼働率96.8%であった。

令和5年度の職員の入退職、入職34名・退職29名とブエナビスタの職員の約4割の入れ替わりとなった。職員補充として主として人材紹介・派遣であったが、ミスマッチングでの手数料のロスも目立った。又、短期入所の稼働率は、前年度同様受入れはなかった。

長引く続く戦争や円安で、前年度に引き続き光熱費・ガソリン・食材・介護用品・ペーパー類等全ての物が高騰している状況で、値上げに関しては、各業者と価格交渉を行い出来る限り価格抑制に努めた。又、オムツの使用については本部と連携し、排泄委員会の立ち上げを検討することで令和6年度に向け委員会の発足準備に努めた。

(3)新型コロナウイルスへの予防対策としては、全職員がマスクの着用・手洗い・手指のアルコール消毒等の実施や感染症が疑いのある症状や同居家族の体調不良がある場合には可能な限り行動履歴の確認等を行い、出勤の中止と復帰前の抗原検査を実施した。又、ワクチン接種については、入居者はアレルギー等がある方々を除き3月上旬迄に76名が7回のワクチン接種の実施が出来た。職員については、部署ごとに異なり、事務や看護は6回若しくは7回のワクチン接種が実施出来たが介護は勤務状況や副反応の症状の有無に左右され、接種率が低い状況であった。8月迄は入居者に罹患者は出て居なかったが、9月18日往診医のご厚意によりギター演奏の歌会を実施した際、往診医が翌日より発熱されコロナ陽性が判し、9月21日歌会に参加されていた3階入居者が発熱された為、抗原検査を実施し陽性の判定が出た為、協力医療機関と連携し即日入院する事が出来た。その他の歌会に参加された入居者へ抗原検査を実施したがいずれも陰性にて推移し1名のみで広がる事はなかった。その後、入居者の感染者は出ていなかったが2月20日に3階入居者が発熱され抗原検査を実施し陽性の判定が出た為、協力医療機関へ受診したところPCR検査・抗原検査とも陰性で擬陽性との事だったが肺炎を起こしていたのでそのまま入院となった。その後、入居者に感染者は出なかった。3月5日2階入居者が発熱され抗原検査を実施し陽性の判定が出た為、協力医療機関へ受診しそのまま入院となったが、食席が近くの入居者を検査したところ症状は微熱程度であったが抗原にて陽性判定が出る。こちらの入居者については症状が落ち着いており、協力医療機関では入院対象ではないとのことで、施設対応となり居室隔離を実施。隔離対応を行い、経過良好にて隔離解除し、その他の入居者にも感染することはなかった。

令和4年12月末から令和5年1月にかけて起こったクラスターを経験したことで職員の感染予防の意識・スキルの向上が見られ、協力医療機関との連携がスムーズに出来た為、大きな混乱もなく感染対応を実施することが出来た。

しかしながら、コロナに加えインフルエンザが例年よりも早く流行したことで、入居者や職員の罹患が確認され感染症対策の重要性を学んだ1年となった。

<令和5年度、コロナ陽性者>

	陽性者数	備考
入居者	4名	2階2名、3階2名(擬陽性含む)
職員	12名	1階3名、2階4名、3階1名、4階2名、看護師1名、ケアマネ1名
合計	16名	

<令和5年度、インフルエンザ罹患者>

	陽性者数	備考
入居者	5名	1階3名、2階1名、3階1名
職員	9名	1階4名、2階2名、4階3名
合計	14名	

(4)健康管理は、医務・介護が中心となり利用者の健康状態の把握に努め、体調不良の兆候が見られた

際には、施設医や往診医の協力のもと早めの受診を心掛けた。又、感染症対策として検温、マスク着用、手指消毒、手洗い、換気を実施し感染症の予防と早期発見・早期対応に努めた。新型コロナウイルス感染症の 5 類移行に伴い、協力医療機関である三愛病院にコロナ陽性者が確認された場合専用病床へ優先的な入院協力を依頼し、感染者が出た際の対応の調整に取り組んだ。

(5)昨年度に引き続きコロナ禍であったが、ガラス越し面会やユニットごとで小規模レクリエーションを感染状況を見ながら実施する事が出来た。又、給食委託業者と協働し、ケーキバイキングや寿司バイキングを初めて実施し、ご入居者からも好評の声が上がっていた。各種委員会活動については感染状況によって対面や書面で実施となった。

(6)令和 5 年度も、コロナ禍で施設外研修は Zoom 研修が主であったが Zoom 研修の特性を生かし、空いた時間を使って研修を受ける、何度も見返す事が出来る等感染対策が良い恩恵をもたらし、多くの職員を参加させる事ができた。感染症予防の為、集合研修は限定的となったが、外国人技能実習生受入れの為、介護技能実習指導員研修 3 名が指導的立場で活躍出来る資格取得研修に参加出来た。又、内部研修については外部研修と同様に感染症予防の為、流行状況を見ながら開催となった。前年度は開催出来ず書面による実施になることが多かったが、今年度は参加率こそ低くなってしまったが、対面で実施することが多かった所以他部署や他フロア職員と意見交換や質問等を確認する事が出来た。